

## 1 指導のねらい

- ・ 比較したり評価したりして読む(領域:「読むこと」)

## 2 学習活動の設定

ひろしさんは、京都での校外学習の記録文「まるで別荘のような銀閣」を書くことにした。ひろしさんは、銀閣について「調べたことや見てきたこと(事実)」と、「見た感想(意見)」を分けて書くつもりで文章構成を考えた。ところが、ひろしさんの書いた記録文は、事実と意見が混ざり、分かりにくくなってしまった。この記録文を、事実と意見を分けた分かりやすい文章にするにはどうすればよいかを考える。

## 3 指導の実際(1時間扱い/第6学年対象)

学習活動	指導上の留意点・評価(○印)
1 本時の学習のめあてを確認する。 (学習プリントA)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習活動(学習の設定)を説明し、ひろしさんの書いた記録文を、分かりやすい文章にするにはどうすればよいか考えることを押さえる。</li> <li>○進んで学習活動に取り組もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)</li> </ul>
2 資料①【記録文の文章構成】と、資料②【ひろしさんが書いた記録文】を読み比べ、合っていないところを見付ける。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料②【ひろしさんが書いた記録文】の「事実」の文には赤線、「意見」の文には青線を引く。(学習プリントA)</li> <li>・ 資料②【ひろしさんが書いた記録文】の中から、資料①【記録文の文章構成】と合わない文を見つけて書き抜く。(学習プリントB)</li> <li>・ 友だちと交流し、書き抜いた文を確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料②の記録文には、事実の文と意見の文とが混在していることに気付かせる。</li> <li>・ 資料①と資料②を比較して読ませ、事実を述べるはずの第三段落、第四段落にある「意見」が書かれている文を見付けさせる。</li> <li>・ 交流を通して、理解が不十分な児童に理解させる。</li> <li>○資料を比較して読み取っている。(読む能力)</li> </ul>
3 このように直せばよいと思う自分の考えを、そう考えた理由とともに書く。(学習プリントB)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合わない文を他の段落に移す、文末を変えるなど、文章構成表に合わせるためにどのように変更すればよいかを考えて説明させる。</li> <li>○文章を評価しながら読んで考えたことを、根拠に基づいて説明している。(読む能力)</li> </ul>

## 4 ここがポイント

- ◇ 「事実」とは実際の出来事や様子、「意見」とは筆者の感想や考えであることを押さえる。
- ◇ この学習を通して、「事実」と「意見」とを区別して読んだり書いたりするように意識させる。

ひろしさんは、校外学習についての記録文を書きました。ひろしさんは、記録文を書く前に、事実と意見を分けた文章構成を考え、そのとおりに書こうと思いました。

資料①【記録文の文章構成】と資料②【ひろしさんが書いた記録文】を読み、記録文が、書く前に考えた文章構成に合っているかどうかを考えましょう。

資料①【記録文の文章構成】

〈はじめ〉 第一段落 見学した月日、気温、天気（事実）

第二段落 銀閣を見学地に選んだ理由（意見）

〈なか〉 第三段落 事前に調べたこと（事実）

第四段落 実際に見てきた銀閣の様子（事実）

第五段落 銀閣についての感想（意見）

〈おわり〉 第六段落 ほかの文化財についても調べ、日本の歴史を深く知りたい（意見）

資料②【ひろしさんが書いた記録文】

まるで別荘のような銀閣

十月二十七日、京都での校外学習の日は、温かく気持ちのよい晴れの天気だった。

わたしたちの班は、社会科の学習として、銀閣に行った。銀閣を見学地に選んだのは、「書院造」というのはどのような建て方なのか、「わび」「さび」とはどのような考え方なのかということを、実際に見て学びたいと思ったからだ。

わたしたちは、校外学習に行く前に、銀閣についていろいろと調べた。銀閣は、一四八九年に八代将軍足利義政が建てたお寺で、書院造が取り入れられている。わたしは、銀閣は、まるで、ひ暑地にある別荘のようだと思った。 （※ひ暑地：夏の暑さをさけて過ごす涼しい所）

実際に見ると、銀閣の庭はとても広い。その庭には、コケが多くあり、木などの植物も多くあった。自然が美しく、とても落ち着いたふんいきだと感じた。また、白い砂でできている庭もあった。そこには「向月台」という富士山の形をした砂山と、「銀沙灘」という砂でできた波があった。その庭の近くに、二階建ての建物である観音殿があった。かべはこげ茶色で、障子はまっ白だった。かべと障子の色合いが、とてもきれいだと思った。

庭も建物も、「わび」「さび」を取り入れ、自然や色の調和をよく考えて作られているので、日本を代表するすばらしい芸術だといえるだろう。今回の校外学習で、実際に目で見てそのことを確かめることができ、よかったと思う。

日本には、ほかにどのような文化財があるのだろうか。ほかの文化財についても調べ、できれば実際にその場に行って、日本の文化のすばらしさにふれてみたい。

○ 資料②【ひろしさんが書いた記録文】を読み、「事実」の部分には赤線、「意見」の部分には青線を引きましよう。

○ 資料②【ひろしさんが書いた記録文】の中から、資料①【記録文の文章構成】と合わない文を見つけて書きぬきましよう。

○ 資料①【記録文の文章構成】と合わないところを、どのように直せばよいと思いますか。自分の考えを書きましよう。

資料①【記録文の文章構成】と合わない文 (書きぬき)	このように直せばよいと思いますか。自分の考え

あかりさんは、校外学習についての記録文(資料②)を書きました。あかりさんは、記録文を書く前に、事実と意見を分けた文章構成(資料①)を考え、そのとおりに書こうと思いました。

資料①【記録文の文章構成】

- 〈はじめ〉 第一段落 校外学習の日、行き先、天気について(事実)
- 第二段落 班のメンバー、係について(事実)
- 〈なか〉 第三段落 校外学習が楽しみだった理由(意見)
- 第四段落 実際に行って見たこと(事実)
- 〈おわり〉 第五段落 どのようにしてこんなに大きく立派な建物や大仏を作ったのか、調べてみたい(意見)

資料②【あかりさんが書いた記録文】

東大寺の大仏

わたしは、十月十五日に、校外学習で奈良県にある東大寺に行きました。その日は秋晴れでとてもよい天気でした。

わたしの班のメンバーは六人でした。行く前にみんなで当日の係を決め、仕事を分担しました。わたしは記録係だったので、写真を撮ったり、聞いた説明をメモしたりしました。

わたしが、校外学習に行くのをとても楽しみにしていたのは、社会科の学習で東大寺の大仏殿が世界最大級の木造建築であることを知り、ぜひ一度、その中に入ってみたいと思っていたからです。また、大仏がとても大きいことも知り、この目で見てみたいという気持ちがあったからです。

行ってみると、大仏殿は、とても大きく、横はばが約六十メートルもありました。その中に入ると、大仏が安置されていました。大仏も大きく、鼻の穴は、人がくぐれるくらいの大きさでした。どちらも、とても立派なので、おどろきました。

機械のなかった奈良時代に、どのようにしてこんなに大きな建物や大仏を作ることができたのでしょうか。次の社会科の時間には、このことについて調べてまとめたいと思います。

(一) あかりさんの書いた記録文には、資料①の文章構成に合っていないところがあります。その文を見つけて線を引きましょう。

(二) その部分をどのように直したらよいと思いますか。あなたの考えを、理由といっしょに書きましょう。